

山梨大学産学連携体制の変遷 ～新体制について～

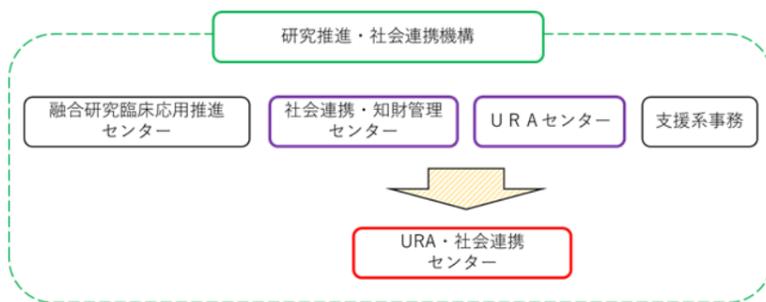
令和3年6月1日より、これまでの社会連携・知財管理センターとURAセンターとが、「URA・社会連携センター」として統合され、新体制となりました(右図参照)。

遡りますと、社会連携・知財管理センターは、「地域連携室」と「知的財産管理室」とに分かれておりましたが、それぞれの人員が乏しく、また月間・年間での業務量の波が異なる点を鑑みまして、マンパワーの効率的活用の観点から、「社会連携・知財管理センター」に合体いたしました。

今回も同じように、マンパワーの効率的活用の点と大学の知的資産活用を重点化する目的で、URA・社会連携センターに合体したものです。この重点化の背景には、令和元年度 国立大学イノベーション創出環境強化事業に本学が採択を受け事業推進が行われている背景もあります。https://www.yamanashi.ac.jp/23349

沿革として説明しますと、平成16年の国立大学法人化の時点では「大学知的財産本部整備事業」により地ならしをした後、平成20年で機構が誕生して「地域連携室」と「知的財産戦略室」ができ、2つが平成26年に合体して社会連携・知財管理センターとなりました。その後文科省の意向もあり研究者の支援環境改善のために平成28年度にURA室が出来てその後URAセンターになりました。この時代のことを解説しているページがありますので次のリンクでご確認ください。https://www.scrs.yamanashi.ac.jp/overview/6/

この6月1日からは「URA・社会連携センター」として、新技術情報クラブの運営を継続しておりますが、事務局は「社会連携・知財管理センター」の時と変わらず担当しております。今後とも皆さまのご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



今後のイベント情報

令和3年度やまなし産学官連携交流事業
産学官連携による研究発表会

新型コロナウイルス感染症の拡大の影響で、昨年度はウェブサイトによる研究紹介という新しい形による発表会を開催し、どこからでも都合の良い時間に視聴できると好評をいただきました。今年度は、その利点と、研究者と直に話ができるというこれまでの利点を合わせて、ウェブと会場のハイブリッド型発表会を計画しています。今秋以降の開催を計画していますが、詳細が決まりましたら、ご案内いたします。

Agribusiness Creation Fair 2021
アグリビジネス創出フェア
2021年 11月 24日(水) 26日(金)
東京ビッグサイト 青海展示棟

農林水産・食品分野の技術関係では最大級の展示会

アグリビジネス創出フェア2021は、全国の産学機関が有する、農林水産・食品分野などの最新の研究成果を展示やプレゼンテーションなどで分かりやすく紹介し、研究機関間や事業者との連携を促す「技術・交流展示会」です。2021年は会場開催+オンラインを活用した展示会となります。会期前には参考となる情報を発信、会期前から後までコーディネーターの支援によるスムーズなマッチング、いつでもお問い合わせに対応できる体制を整えるなど、マッチング施策が充実しています。山梨大学は、オンラインのみの出展をいたします。ぜひ、この機会に新しい連携を見つけてみませんか。

Innovation JAPAN 大学見本市
国内最大級の産学マップ

イノベーションジャパン2021
～大学見本市Online
2021年8月23日(月)～9月17日(金)

- 【本学出展者】
- ◆丸山祐樹助教(クリスタル科学研究センター)
「リチウムイオン伝導体バルク単結晶育成の開発」
 - ◆川井将敬臨床お助教(人体病理学)
「熟練度評価を加味した皮膚病勢スコアリングAIアプリ」
 - ◆豊浦正広准教授(コンピュータ理工学科)
「AIと創る織物」
 - ◆關谷尚人准教授(電気電子工学科)
「3次元ユビキタスワイヤレス電力伝送システム」

今年度もオンライン開催！ぜひこの機会に全国の大学等から創出された研究成果をご覧ください。

UNIVERSITY OF YAMANASHI
Regional Core & Global Professionalism
【発行2021年8月2日】

国立大学法人 山梨大学
研究推進・社会連携機構 新技術情報クラブ事務局
〒400-8510 山梨県甲府市武田4-4-37
TEL : 055-220-8758 FAX : 055-220-8757
E-mail : renkei-as@yamanashi.ac.jp
URL : http://www.scrs.yamanashi.ac.jp/

大学TOPICS

峡南5町(市川美郷町・早川町・身延町・南部町・富士川町)と包括連携協定を締結

令和3年7月19日(月)、山梨県防災新館において、峡南5町(市川三郷町・早川町・身延町・南部町・富士川町)との包括的連携協定の調印式を挙りました。

本協定は、本学と峡南5町が自然・環境、健康・福祉、防災、教育・文化、産業・科学技術、観光の各分野で協力し、豊かで活力ある地域社会の形成と振興を図り、相互の発展を目指すことを目的に締結し、「峡南5町・山梨大学連携推進協議会」を立ち上げ、地域防災や高齢化・過疎化等をテーマとし、共通した課題解決に取り組むなど、連携活動を推進することとしています。

調印式では、長崎幸太郎 山梨県知事が「県はすでに峡南5町と連携し、地域活性化や観光振興に取り組んでいる。峡南5町と山梨大学が連携することでさらなる地域の発展を期待する」、峡南5町代表として、辻一幸 早川町長が「山梨大学から学術的な指導をいただき、地域の活性化を推進していきたい」、島田眞路学長が「特に防災の観点から連携し、地域防災力の強化に取り組むとともに、各町の課題解決に貢献していきたい」とそれぞれ挨拶し、今後の連携活動への決意を述べました。



挨拶をする長崎知事



挨拶をする辻 早川町長



挨拶をする島田学長



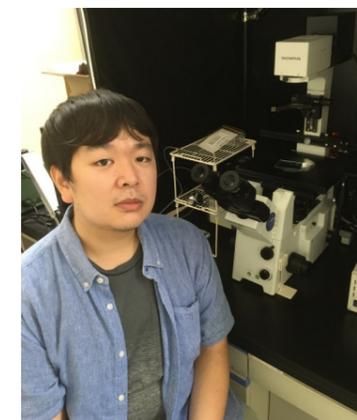
左から、佐野南部町長、望月身延町長、辻早川町長、長崎知事、島田学長、久保市川三郷町長、志村富士川町長

大竹真央さん(博士課程工学専攻システム統合工学コース3年)が
MBI 3Msatellite poster session in Japanでポスター賞を受賞

令和3年7月20日(水)、オンラインで開催された国際会議「Materials, Mimics, and Microfluidics: Engineering Tools for Mechanobiology (MBI 3M) satellite poster session in Japan」において、大学院博士課程工学専攻システム統合工学コース3年の大竹真央さん(指導教員：浮田芳昭 機械工学科准教授)がポスター賞を受賞しました。

同賞はMBI 3M日本サテライトが主催のポスターセッションにおいて優秀な論文を発表した若手研究者に授与されるもので、同セッションから3名が受賞しました。また、受賞者は7月21日(水)～23日(金)に開催されたMBI 3M本会議で受賞テーマについて講演しました。

大竹さんの受賞テーマは、「網羅的な分子の引張試験による分子間相互作用測定法」です。本研究は数1,000に及ぶ生体分子間の結合状態を一括で測定する独自手法の研究開発で、遠心力を用いることで多量の計測が容易に実現でき、幅広い応用が可能であることが高く評価されました。



受賞した大竹真央さん

新 | 技 | 術 | 情 | 報 | ク | ラ | ブ

新技術情報クラブ活動報告

山梨大学新技術情報クラブ令和3年度第一回交流会(Web)を開催

本クラブの令和3年度第一回交流会が令和3年7月16日(金)に昨年度同様WEB開催されました。残念ながら今回もコロナ禍の影響を受け、動画配信を活用したWEB交流会となりました。当日は、本学教員2名による講演を行い、お忙しいなか法人会員5社12名、個人会員6名の合計18名という多数の皆様のご参加を頂きました。

まず工学部附属ものづくり教育実践センター准教授の牧野浩二先生から「ロボットコンテストを活用した教育事例」と題し、特に牧野先生が取り組まれたNHKのAIロボコンの取組み実例や、ロボットやAIの教材作成の取組みについてお話を伺いました。

続いて今回初めて医学部関係の講演としまして融合研究臨床応用推進センター特任教授の野田智秀先生から「医療機器産業技術人材養成講座(やまなし地域活性化雇用創造プロジェクト)の取組みについて」と題し、医療機器の市場・動向及び医療機器とは何か、医療機器産業技術人材養成講座の内容や今までに製品化したものの実例紹介等、興味深いお話を伺いました。

各講演終了後に講演者との質疑応答では、会員企業様が現在抱えている課題へのヒントとなり得る助言もあり、盛会裏に終了いたしました。

今年度もコロナ禍の影響を受け、動画配信等を活用したWEB交流会となりましたが、今年度は3回実施していく予定です。今後も会員の皆様のニーズをくみ取る中、有意義な交流会となるべく努めていく所存です。また今後の運営方法やテーマ等に関する皆様方のご意見、ご提言等をお待ちしております。宜しくお願い致します。



挨拶をする熊田理事・機構長

質問に回答する牧野准教授
(Zoomにて)

講演をする野田特任教授
(配信動画より)

司会進行をする
選田コーディネータ

新型コロナウイルスワクチンの職域接種(大学拠点接種)について

本学の学生、教職員を対象とした新型コロナウイルスワクチンの職域接種(大学拠点接種)は、本学附属病院の医療スタッフが打ち手となり、6月22日から甲府キャンパス、29日から医学部キャンパス、7月2日から山梨県立大学において接種を開始し、7月20日から1巡目の方々の2回目の接種を実施しています。1巡目の接種においては、全学生(大学院生を含む)の約85%が接種しました。また、(一社)山梨県機械電子工業会、甲府商工会議所等、依頼のありました県内の団体へのワクチン接種も行っております。これまでに発熱、倦怠感等以外、特に重篤な副反応は一切発生しておりません。

ワクチン接種は、感染者の減少、感染した場合の重症度の軽減および集団免疫の獲得、大学においては、対面授業や課外活動など本来の大学生活を取り戻すことに繋がります。今後もワクチン接種を希望する学生、教職員に対応していきます。

山梨大学特許最新情報

	発明の名称 (下段) 概要	代表発明者	出願番号	出願日
1	着座作業推定システム、椅子、センサ、情報処理装置及び着座作業推定方法	豊浦 正広	特願2021-076155	2021/4/28
	イスに取り付けたセンサのデータから機械学習により作業者の作業活動を、①不在、②着席動作、③離席動作、④PC操作、⑤筆記、⑥会話or静止のいずれであるかを推定する。			
2	太陽電池素子	原 康祐	特願2021-109014	2021/6/30
	BaSi2は太陽電池に適した性質を持つ半導体である。発明者は、BaSi2薄膜を用いた新しい構成により、理論限界効率33%に迫る高効率な太陽電池を実現できる条件を解明した。			

新 | 技 | 術 | 情 | 報 | ク | ラ | ブ

コーディネータによる【研究者紹介】

生命工学科 大槻 隆司 准教授

今回は、生命環境学部生命工学科の大槻隆司准教授をご紹介します。先生は、微生物とバイオマスを主な研究対象とし、「微生物あるいは微生物群が有する機能を利用して、人間社会と地球環境に有益な工程の基盤となる技術を開発する」ことを目標として研究を進めています。化石燃料の枯渇問題や、原子力発電に対する社会的評価の変化により、これらを代替する新しいエネルギー資源の必要性が高まる中で、「バイオマス」の活用は、今後の人類の命運を左右する重要課題です。自然界由来の有機物であるバイオマスのほとんどは、生物機能を用いて変換・有効利用が可能です。いろいろな生物の力を借りた工程を組み合わせることで、現在は廃棄物として処理されているバイオマスから様々な製品を取り出すことができ、廃棄物をゼロにしつつ利潤を生み出す「経済的に成立可能な有機廃棄物総合活用システムの構築」を目指しています。近年は化石資源消費の削減に貢献するべく「メタン発酵の生産制御」、「ブタンジオールの大量生産」、「微細藻類の炭化水素生産性向上」など化学工業やエネルギー産業に資する研究が主体ですが、バイオマス変換はまだコストに難があるため、同時に「薬用作物の優良苗育成と供給」など、より高付加価値な製品を生産することで全体のコストを賄い、産業として成り立たせるための研究にも力を入れています。



大槻 隆司 准教授 (研究室にて)

助成金等公募情報

公益財団法人山梨中銀地方創生基金【U・I・Jターンする個人に対する助成事業】

山梨県内の地域社会繁栄又は地域経済活性化に寄与することを目的として、山梨県内に就職、居住する個人(予定者を含む)に対して、就職や転居に係る費用等を助成します。

助成対象者：2021年5月1日から2022年4月30日までの間に、U・I・Jターンにより山梨県内の企業へ新たに就職(正規雇用に限る)し、かつ、山梨県内に居住する個人(予定者を含む)

助成金額：1人あたり20万円

応募期間：2021/5/6~2021/11/30

詳細は<https://www.yamanashi-chihouseisei.or.jp/furtherance/>をご覧ください。

公益財団法人山梨中銀地方創生基金【技術向上に取り組む個人等に対する助成事業】

山梨県内の地域社会繁栄または地域経済活性化への寄与を目的として、高度な技能・技術・知識向上のための費用を助成します。

助成対象者：山梨県に居住し高度な技能・技術・知識向上に積極的に取り組み、将来、山梨県内においてこれらの成果を活用しようとする個人

助成金額：1人あたり50万円以内

応募期間：2021/5/6~2021/11/30

詳細は<https://www.yamanashi-chihouseisei.or.jp/furtherance/>をご覧ください。

公益財団法人市村財団法人【新技術開発助成】

市村清新技術財団は広く科学技術に関する独創的な研究や新技術を開発し、これを実用化することによって我が国の産業・科学技術の新分野等を醸成開拓し、国民生活の向上に寄与することを目的としています。助成は「独創的な新技術の実用化」をねらいとしており、基本的技術の確認が終了し、実用化を目的にした開発試作を対象にしています。

年に2回ある助成の第2次募集要項が2021/8/1より公開されました。詳細は<https://www.sgkz.or.jp/project/newtech/>をご覧ください。